



23名の1年生を迎えました(4/8)

満開の桜のもと、令和6年度の入学式を挙りました。
今年、数年ぶりに、全校で、23名の1年生を迎えました。6年生と一緒に入場した子どもたちは、少し緊張している様子が見られましたが、担任の先生から名前を呼ばれると、一人一人、しっかりと返事をする事ができました。また、「はい。」と返事をした後には、お辞儀までしていたのには感心しました。その後、校長先生からの話を聞きましたが、その時もしっかり話を聞く事ができていました。校長の話では、「アンパンマンのように、困っている子やひとりぼっちでいる子がいたら、『大丈夫?』『一緒にあそぼ。』と声をかけてあげる優しい子になってほしい」「ドラえもんや友だちのように、困ったときや大事なときには、みんなで力を合わせる子になってほしい」と話しました。また、そのためにも、「しっかり勉強をして、いろんなことを覚えましょう。」とも話しました。
早く学校になれて、みんなで一緒に勉強したり、遊んだり、おいしい給食を食べたりするのを楽しんでほしいなと思っています。



5・6年生 1年生を迎える準備をしました(4/5)

4月5日(金)には、5・6年生が登校し、1年生を迎える準備をしました。てきぱきと椅子を並べている姿や、1年生に喜んでもらおうと工夫して飾り付けをしたりしている姿に、高学年としての自覚を感じました。
これからもよろしくお願ひします。



「考えることを楽しむ」「友だちと『できる方法』を考える」

今日の始業式では、子どもたちに次のような話をしました。
まず、私が、自分が先生になりたいと思うようになった1枚の写真との出会いの話をしました。右の写真は、私が「こんな先生になりたい」と思っている林竹二先生が、2年生の子どもたちと授業をしたときに撮影された写真です。印刷ではわかりにくいと思いますが、何とも言えないすてきな表情をしています。授業で、子どもたちのこうした表情を引き出したと思ひ、これまでも授業をしてきましたが、何年経っても、林先生のような授業はできません。



でも、子どもたちから、この子に負けたくないの表情を引き出す授業を、子どもたちや先生とめざしていきたいと思っています。そのために、子どもたちには、次の2つのことを話しました。

1つは、「考えることを楽しむ」ということです。クイズの場面を例に出しながら、答えまで至らなくても、「考えることが楽しい」と子どもたちには感じてほしいと話をしました。以前、大学の物理学専攻の先生と話をしていたときにも、「学校では、必ず答えがあるという教え方をしているけれども、物理の世界に限らず、世の中には、答えの出ないことの方が多いということも、教えないといけない。」と少し強い口調で言われました。子どもたちには、答えが求められること以上に、それを求めるまでの過程に意味を見出し、「考えることが楽しい」と思えるようになってほしいと思っています。

2つは、「友だちと『できる方法』を考える」ということです。この言葉は、『高校生レストラン』をプロデュースした岸川政之さんの言葉ですが、子どもたちには、失敗したり、間違ったり、うまくいかなかったりしたときこそ、友だちと「できる方法」を考えるチャンスであることを話しました。そうした時に、「無理。」「できない。」「やめとこ。」と言うのではなく、「こうしたらどうだろう。」「こうしたらいいんじゃない。」など、友だちと「できる方法」を出し合い、やってみようと思ひました。

☆家庭での学習について☆

新学年を迎えて、子どもたちは色々なことに取り組もうという気持ちでいっぱいだと思います。その気持ちを大切に、教職員一同、日々の学習の中で子どもたちが学びを深め、「わかる」「楽しい」と思える授業の取り組みを進めていきたいと思ひています。

ただ、学習の習慣をつけるためには、家庭での学習の積み重ねが非常に大切になってきます。

そこで、本年度は、全学年、カードの名称を「家庭学習カード」で統一をします。内容としては、「音読」「各学年の課題」「10分間の読書」「(学年に応じて)自主学習」を、引き続き、取り組んでいきたいと思ひています。

子どもたちが学びを深めていくためにも、家庭学習の大切さをご理解いただき、ご協力よろしくお願ひします。保護者の方の「確認サイン」もお願ひします。